

# 橋本健二「新・日本の階級社会」を読んで

(講談社現代新書 2018年)

2018年5月15日 大谷美芳

プロレタリア階級は社会主義革命の革命的階級として存在するのか？ 人民の民主主義闘争は社会主義革命にどのような意義があるのか？ この問題意識で勉強になった。

## (1) 格差拡大で「新しい階級社会」が出現 非正規労働者は新しい階級か？

日本の現在(最新データは2016年)の階級構成がボリューム感をもってよく分かる

(この就業人口に含まれない専業主婦は約900万人と推計できる)。

- ①資本家階級 従業先規模が5人以上の経営者・役員・自営業者・家族従業者  
約254万人 4.1%
- ②新中間階級 専門・管理・事務に従事する被雇用者(女性と非正規事務を除外)  
約1285万人 20.6%
- ③労働者階級 専門・管理・事務以外に従事する被雇用者(女性と非正規事務を含める)
  - 1.正規労働者 約2192万人 35.1%
  - 2.パート主婦 約785万人 12.6%
  - 3.非正規労働者(パート主婦以外) 約929万人 14.9%
- ④旧中間階級 従業先規模が5人未満の経営者・役員・自営業者・家族従業者  
約806万人 12.9%

③の1.2.3.は労働者階級の分裂と納得できるが、非正規労働者を格差が階級化した「アンダークラス」「新しい階級」とする「5つの階級」「新しい階級社会」は納得できない。

階級は、1.生産手段所有制、2.労働指揮関係、3.生産物(消費手段だけでなく生産手段も)分配制、この3側面で構成される生産関係に占める位置で規定すべきである。

非正規労働者は、隔絶した格差(低賃金・不安定雇用・社会保障から除外・結婚と家族ができないなど)がある。しかし、生産手段を所有せず、被雇用=賃労働の点で正規労働者やパート主婦と共通で(非正規の対極で正規の長時間過重労働も増大する連関もある)、全て労働者階級と見るべきだろう。

新中間階級は被雇用=賃労働でも3.労働指揮関係で資本家階級の代理の位置にある。旧中間階級は生産手段を所有している。

## (2) 格差縮小で「非階級社会」を実現 正規労働者の変革なしに社会変革できるか？

その上で、格差縮小のための「簡単なものから大幅な制度の改変を必要とするものまで含んだ政策的に可能な方法」を次のように提起している(人民の当面する要求=綱領だろう)。

- ①賃金格差の縮小
  - 1.均等待遇の実現 正規と非正規、男性と女性などの差別の廃止
  - 2.最低賃金の引上げ
  - 3.労働時間短縮とワークシェアリング
- ②所得の再分配
  - 1.累進課税の強化 所得税減税を批判しているが逆進性の消費税反対が欠落している
  - 2.資産税の導入 不動産に対する固定資産税はすでにあるので動産・金融資産に課税

### 3.生活保護制度の実効性の確保

#### 4.ベーシック・インカム

### ③所得格差を生む原因の解消

#### 1.相続税率の引き上げ

#### 2.教育機会の平等の確保 奨学金の問題と生育環境の問題

現在、過剰な貨幣資本が賃労働を雇用する産業資本に転化せず投機マネー化している(金融資本の極限?)。その対極に恒常的な失業者(言わば「絶対的過剰人口」)が生み出されている。だから、金融資本と投機マネーを規制し、失業者に雇用(農業や環境や介護など)を創出する方策も必要であろう。また、保険や年金など社会保障の問題も欠落している。

これらの方策で非正規労働者が窮状から抜け出せば、「階級間の格差が小さな」「非階級社会」を実現できるとしている。この「変革の担い手」は、「アンダークラス、パート主婦、旧中間階級、そして新中間階級と正規労働者の中のリベラル派」としている。

格差縮小の方策は納得できるが、「変革の担い手」は納得できない。

最大多数は正規労働者である。パート主婦自身は非正規労働者だが、夫は正規労働者が最大多数で、次は新中間階級だろう(だから非正規労働者と区別)。

正規労働者を全体として「変革の担い手」に変革しないで、社会を変革できるだろうか？ パート主婦が決起できるだろうか？

現状では、正規労働者と新中間階級は「貧困層に対して冷淡」で「アンダークラスに対して敵対的」である(原因は「自己責任論」と指摘)。だが、「アンダークラス」=非正規労働者も「格差是正の要求と排外主義」が「強く結びついている」(これも指摘)。

これは全て、差別と格差、分断支配、その上でのイデオロギー支配の結果だろう。だから、格差を縮小し廃止する闘争は、同時に、イデオロギー支配を打破し、正規労働者を全体として変革し、新中間階級を再分解し、労働者階級を再統一する闘争と位置づけるべきだろう。

### (3)差別と分断に反対する闘争を通して労働者階級を再統一

資本主義は、資本家階級が労働者階級を搾取する生産関係=階級関係である。

その基礎は生産手段の所有と労働の分離である(生産手段の所有と労働を再結合=共有が社会主義)。同時に、民族差別、性差別、身分差別(封建制から継続)など様々な差別がある。

非正規雇用は、資本主義特有の相対的過剰人口=産業予備軍=失業から制度化された新しい差別と言える。その結果がイデオロギーも含めた労働者階級の分裂である。これが資本主義の階級支配を強め、かつ同時に覆い隠している。

差別と格差に反対しそれを縮小し廃止する闘争は、正当で平等な被雇用=賃労働によってパート主婦を含む非正規労働者の状態を改善する闘争であり、資本と賃労働の階級関係と搾取の廃止ではなく、民主主義闘争である。

しかし、パート主婦を含めた非正規労働者に依拠して闘争し、正規労働者を引き込み共闘の中で変革し、新中間階級を再分解させ、分断と分裂の克服と労働者階級の再統一を準備するだろう。この変革と再分解と再統一で女性差別に対する闘争と関係してパート主婦が結節となって大きな役割を果たすだろう。

差別と格差に反対する闘争を通らないと、生産手段の所有と労働の分離を根底とした資本家階級と労働者階級が階級対立は露にならず、鮮明にならない。

そうしないと、労働者階級を再統一し、階級闘争に組織し、革命の原動力とすることはできないだろう。

#### (4) 革命的民主主義=人民民主主義が社会主義革命を引き寄せる

ロシア革命と中国革命では、封建制と植民地支配に対する民主主義革命が徹底的であれば、資本主義が発展し、プロレタリア階級の階級闘争が発展する、と考えられた。

資本主義が発展した現在の日本では、プロレタリア階級が大きく分裂している。

差別・分断に反対だけでなく、広く民主主義の要求=綱領(①経済だけでなく②政治③社会④外交など)に基づく人民の闘争は、国家と社会の全分野におけるブルジョア階級とプロレタリア階級の階級対立を露にし、鮮明にする。だから、社会主義革命の原動力としてプロレタリア階級を再統一し階級闘争に組織するのに絶対に必要である、と言える。

ロシアと中国の「プロレタリアートと農民の革命的民主主義的独裁」「人民民主主義独裁」は、プロレタリア階級が国家権力を握って上から資本主義を統制し、国家=社会の管理・運営に学習し、プロレタリア階級独裁へ転化し社会主義革命へ前進する、と考えられた。

現在の日本では、差別・分断に反対する闘争も、広範な民主主義闘争も、国家と資本、行政と企業に対する下からの人民の統制となる。この闘争で、正規労働者を全体として変革し、新中間階級を再分解し(被雇用=賃労働の側面を捉えて)、プロレタリア階級を再統一できる。プロレタリア階級は国家=社会の管理・運営を学習できる。

現在の国家=社会の管理・運営は、資本家階級の独占だが、実際は新中間階級が代理して正規労働者を指揮して実行されている。これが基幹で支柱となっている。だから、正規労働者を全体として変革し、新中間階級を再分解して、国家=社会の基幹と支柱を突き崩す(それが「ヘゲモニー」「対抗社会」「陣地戦」だろう)、と言える。

こうしないとプロレタリア階級独裁と社会主義革命はありえない、社会革命とは新社会を旧社会とは別に創出するのではなくそれを突き崩して創出することである、と言える。

#### (5) 党の問題の確認

プロレタリア階級を再統一し階級闘争に組織し、社会主義革命を達成するには、民主主義闘争は必要だが、社会主義(共産主義)の綱領に基づく革命党による指導と組織がないと(党が組織する革命の軍隊による革命戦争と「機動戦」を含めて)、十分ではない。